

Pratt Institute から研究者と学生が来訪しました（2016/7/5-6）

テーマ：被災地視察

場所：7/5 被災地視察（関上・岩沼ほか）、7/6 災害科学国際研究所

2016年7月5日から6日にかけて、ニューヨークにある大学Pratt Instituteから、教員と学生が教育活動の一環として仙台を訪れました。Jonathan Martine教授によるこのPratt Instituteの教育活動「Japan Planning & Urbanism」は2012年から、東京を主な対象地として日本の都市を学ぶという目的で始まり、今年で4回目を迎えました。村尾教授（地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野）は2010年（当時筑波大学所属）からその立ち上げに協力し、過去にも日本の学生を交えた都市・建築ワークショップなどを通じて、Pratt Instituteとの交流を深めてきました。今年は、東京と京都を訪れた後、東日本大震災における被災地を訪れ、復興について学ぶために来仙したものです。

Pratt Instituteのメンバーは、1日目には東日本大震災の被災地視察を目的として、村尾教授による調査に同行し、宮城県南部における被災と復興に関する解説を受けながら、土地区画整理事業、沿岸部の防潮堤建設状況、災害公営住宅の現状、嵩上げ道路の建設状況などについて学びました。

2日目の午後（14時から15時）には、災害科学国際研究所（IRIDeS）の多目的ホールにて災害研の組織や研究内容を紹介され、女川の津波を取り上げた三次元可視化システムの体験や、3Dドキュメンタリー映画「大津波 The 3.11 未来への記憶 Tsunami」を鑑賞しました。



荒浜小学校における災害遺構の解説



村尾教授の説明を聞く学生たち



多目的ホールでの様子



2日間のプログラムを終えての集合写真